

杜 の 街 開 発 事 業
に 係 る 事 後 調 査 報 告 書
(Ⅰ 期 工 事 区 域 : 供 用 後)
(Ⅱ 期 工 事 区 域 : 工 事 中)
(Ⅲ 期 工 事 区 域 ・ 7 工 区 : 工 事 中)

平 成 30 年 5 月

三 交 不 動 産 株 式 会 社

はじめに

本報告書は、杜の街開発事業(旧名称：河芸グリーンガーデン複合開発事業)が実施されるにあたり、「河芸グリーンガーデン複合開発事業に係る環境影響評価書(以下、「評価書」という)」に記載した「事後調査実施計画」に従い、工事中に行うとした水質調査、特筆すべき植物及び特筆すべき動物調査、並びに供用後に行うとした水質調査の平成 29 年度調査結果について記載したものです。

なお、調査及びとりまとめは、一般財団法人三重県環境保全事業団が行いました。

目 次

1	事業の概要	1
1-1	氏名及び住所	1
1-2	指定事業の名称、実施場所及び規模	1
1-3	工事の進捗状況	1
2	本調査の位置付け	1
3	水 質	4
3-1	調査概要	4
3-2	調査年月日及び調査内容	4
3-3	調査地点	5
3-4	調査項目及び分析方法	6
3-5	調査結果	7
3-5-1	工事中の濁水	7
3-5-2	供用後の水質	9
4	特筆すべき動物	11
4-1	オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ	11
4-1-1	調査概要	11
4-1-2	調査年月日及び調査内容	11
4-1-3	調査場所	11
4-1-4	調査方法	11
4-1-5	調査結果	13
4-2	コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウ	15
4-2-1	調査概要	15
4-2-2	調査年月日及び調査内容	15
4-2-3	調査ルート	15
4-2-4	調査方法	15
4-2-5	調査結果	17
4-3	カスミサンショウウオ	19
4-3-1	調査概要	19
4-3-2	調査年月日及び調査内容	19
4-3-3	調査場所	19
4-3-4	調査方法	19
4-3-5	調査結果	21
4-4	ダルマガエル	24

4-4-1	調査概要.....	24
4-4-2	調査年月日及び調査内容.....	24
4-4-3	調査場所.....	24
4-4-4	調査方法.....	24
4-4-5	調査結果.....	24

<資料編>

1 事業の概要

1-1 氏名及び住所

氏 名：三交不動産株式会社 代表取締役社長 高林 学
 住 所：三重県津市丸之内9番18号

1-2 指定事業の名称、実施場所及び規模

名 称：杜の街開発事業(旧名称：河芸グリーンガーデン複合開発事業)
 実施場所：三重県津市河芸町杜の街地内
 規 模：総事業面積 1,193,186 m²

1-3 工事の進捗状況

平成30年3月現在の工事の進捗状況は、次のとおりです。(図2-1参照)

- ・Ⅰ期工事区域 — 供用中
- ・Ⅱ期工事区域 — 工事中及び一部供用
- ・Ⅲ期工事区域 — 工事中及び一部未着工

2 本調査の位置付け

本調査の位置づけは、表2-1～3に示したとおりⅠ期工事区域は供用後(16年目)の調査、Ⅱ期工事区域は一部で供用はしたものの、工事中(17年目)の調査、Ⅲ期工事区域も一部で供用は開始したものの、工事中(6年目)の調査になります。

表 2-1 調査一覧 (Ⅰ期工事区域)

	着工前	工事中			供用後									
		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
		1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
騒音		○	○	○										
土壌	○													
特筆すべき植物	○	○	○		○		☆							
特筆すべき動物		○	○	○	○	○	○		○		○			☆

○：調査実施済 ☆：動植物調査最終年度

	供用後									
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32以降
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
水質	○	○	○	○	○	○	●	◎	◎	◎

○：調査実施済 ●：今年実施調査 ◎：次年以降調査予定

表 2-2 調査一覧（Ⅱ期工事区域）

	着工前 (H.11年)	工 事 中											
		H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水 質		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
騒 音		○	○	○	○	○							
特筆すべき植物	○	○		○		☆							
特筆すべき動物		△	△	△	△	○	△	○	△	○	○	△	○

○：調査実施済 ☆：動植物調査最終年度 △：Ⅰ期工事の調査で実施
注：平成 15 年より一部供用開始しているが、工事中としての位置付け。

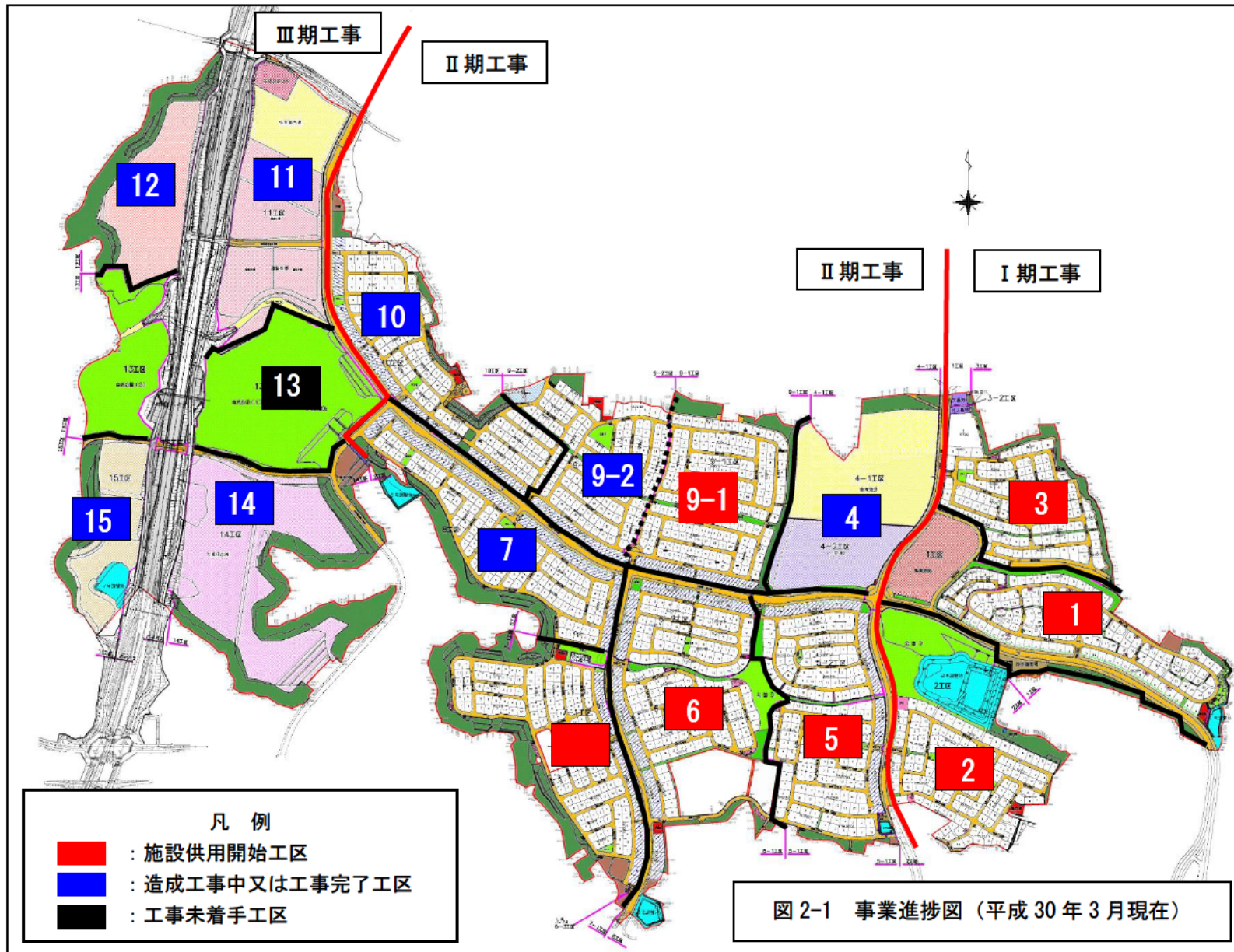
	工 事 中						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
	13	14	15	16	17	18	19
水 質	○	○	○	○	○	●	◎
特筆すべき動物	○	○	○	○	○	●	◎

○：調査実施済 ●：今年実施調査 ◎：次年以降調査予定
注：平成 15 年より一部供用開始しているが、工事中としての位置付け。

表 2-3 調査一覧（Ⅲ期工事区域）

	着工前・ 工事中 (H23年)	工 事 中						
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30以降
		2	3	4	5	6	7	8～
水 質	△	△	△	△	△	△	△	△
騒 音	○	○						
特筆すべき植物	○	○		○		☆		
特筆すべき動物	△	△	△	△	△	△	△	△

○：調査実施済 ●：今年実施調査 ☆：動植物調査最終年度
△：Ⅰ期またはⅡ期工事の調査で実施
注：平成 25 年より一部供用開始しているが、工事中としての位置付け。



3 水 質

3-1 調査概要

Ⅱ期及びⅢ期工事区域での工事を受け、評価書の事後調査実施計画に示した各流域の最終沈砂池出口において、降雨時または降雨後の流出水の浮遊物質(SS)等の測定を実施しました。

また、Ⅰ期工事区域については、工事も完了しほぼ全域で供用が開始されていることから、処理水放流先河川である田中川の放流口前後において、晴天時に調査を実施しました。

3-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 3-1 に示したとおりです。

また濁水調査にあたっての調査 3 日前からの降雨状況を表 3-2 に示しました。

表 3-1 調査年月日及び調査内容

調査内容		調査年月日
工 事 中	濁水調査(降雨時) ※：豪雨時	平成 29 年 5 月 26 日
		平成 29 年 6 月 28 日
		平成 29 年 8 月 8 日*
		平成 29 年 9 月 8 日
		平成 29 年 10 月 3 日
		平成 29 年 10 月 23 日*
供 用 後	処理水調査(晴天時) (田中川の排水合流前・合流後)	平成 29 年 7 月 12 日
		平成 29 年 10 月 5 日
		平成 29 年 12 月 6 日
		平成 30 年 3 月 30 日

表 3-2 降雨状況

観測所名：津

単位：mm/日

測定日	調査当日	調査前日	調査 2 日前	調査 3 日前
平成 29 年 5 月 26 日	6.5	15.5	0.0	0.0
平成 29 年 6 月 28 日	11.0	0.5	0.0	36.0
平成 29 年 8 月 8 日	0.5	134.0	0.0	3.5
平成 29 年 9 月 8 日	0.5	9.0	5.0	1.5
平成 29 年 10 月 3 日	3.0	38.5	0.0	0.0
平成 29 年 10 月 23 日	12.0	308.0	33.5	4.5

出典：気象庁ホームページ(電子閲覧室)より

3-3 調査地点

工事中の濁水調査は図 3-1(1)に示したとおり、No.2、5 の最終沈砂池出口及び流出先河川である田中川の上流と下流の 2 地点の計 4 地点で実施しました。

供用後の調査は図 3-1(2)に示したとおり、田中川の処理水放流地点の上流と下流の 2 地点で実施しました。

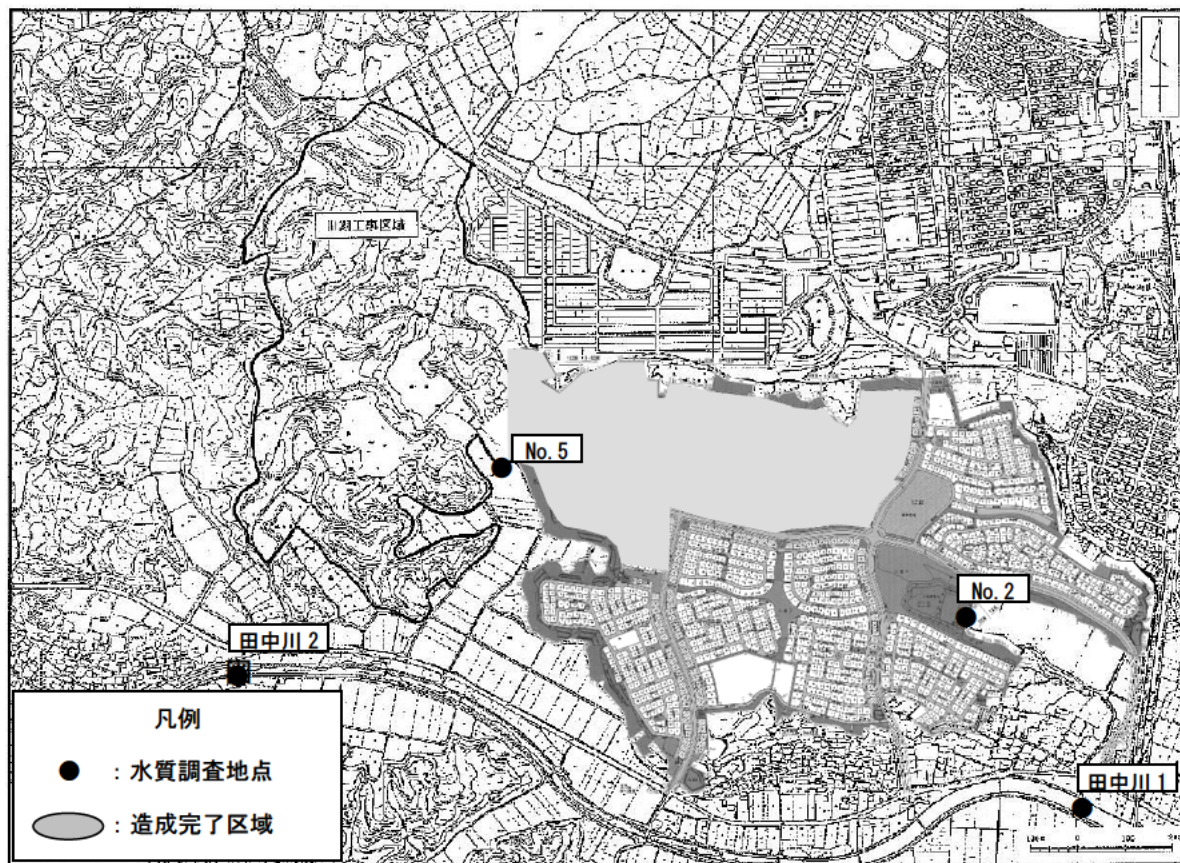


図 3-1(1) 水質調査地点(工事中の濁水)

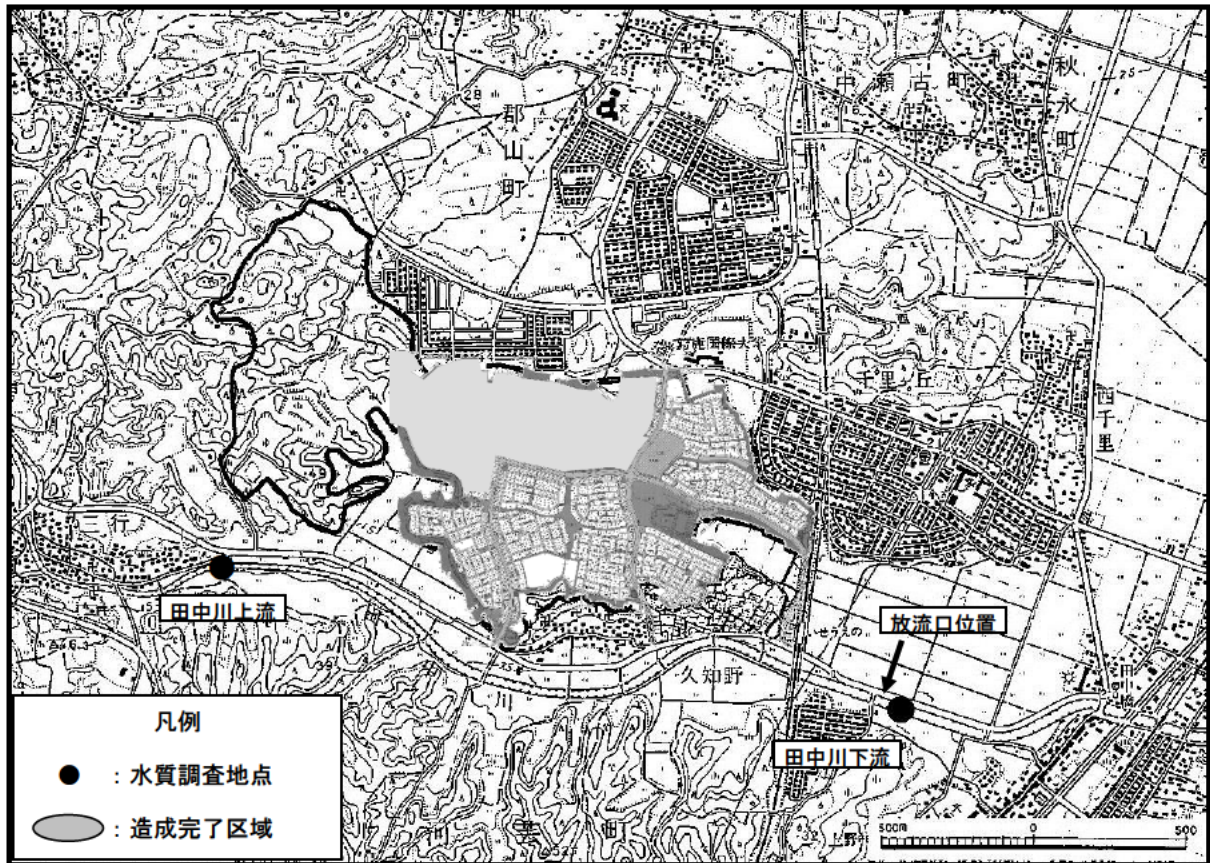


図 3-1(2) 水質調査地点 (供用後の水質)

3-4 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は表 3-3 に示したとおりです。

表 3-3 調査項目及び分析方法

調査項目		分析方法
工事中	浮遊物質 (SS)	昭和 46 環告 59 号付表 9
	濁度	JIS K0101 9.4
供用後	水素イオン濃度 (pH)	JIS K0102 12.1
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	JIS K0102 21 及び 32.3
	化学的酸素要求量 (COD)	JIS K0102 17
	浮遊物質 (SS)	昭和 46 環告 59 号付表 9
	n-ヘキサン抽出物質	昭和 46 環告 59 号付表 14
	溶存酸素 (DO)	JIS K0102 32.1
	大腸菌群数 (MPN)	昭和 46 環告 59 号別表 2
	全窒素 (T-N)	JIS K0102 45.6
	全リン (T-P)	JIS K0102 46.3.4
流量	JIS K0094 8	

3-5 調査結果

3-5-1 工事中の濁水

(1) 調査結果

SS、濁度の調査結果は表 3-4、5 に示したとおりです。

調査の結果、調整池での降雨時の SS 濃度の最大値は平成 29 年 10 月 3 日調査時の No.2 沈砂池出口で 51mg/L、濁度の最大値は平成 29 年 10 月 3 日調査時の No.2 沈砂池出口で 44 度でした。

また、田中川での SS 濃度の最大値は、平成 29 年 10 月 23 日調査時で、濁水流入後の田中川 1(下流側)の 85mg/L、濁度の最大値は、平成 29 年 10 月 23 日の濁水流入後の田中川 1(下流側)で 74 度でした。

次に、今回の結果を評価書における予測結果(Ⅱ、Ⅲ期工事実施時の SS 濃度予測結果：降水量 40mm/日)と比べてみると、今回の調査時の雨量は、8 月 8 日、10 月 23 日を除く調査日においては予測に用いた雨量と概ね同程度でしたが、No.2 沈砂池出口では 10 月 3 日を除く調査時で予測結果を下回る値となりました。一方、No.5 沈砂池出口では全ての調査時で予測結果を下回る値となりました。

流出先河川である田中川(下流側)においては、10 月 3 日の調査時を除いて予測結果(20mg/L)を下回る値となりました。

また、8 月 8 日及び 10 月 23 日の降水量は通常降雨時の予測雨量を大幅に上回っているため、豪雨時の予測結果と比較したところ、No.2 沈砂池出口及び No.5 沈砂池出口のいずれも予測結果を下回る値でした。

採水状況等の調査風景は、資料編の写真 2-1-1~24 に示したとおりです。

表 3-4 水質調査結果(SS)

単位：mg/L

時期 地点	通常降雨時					豪雨時		
	H29				評価書予測結果 ^注 雨量(40 mm/日)	H29		評価書予測結果 ^注 雨量(188mm/日)
	5/26	6/28	9/8	10/3		8/8	10/23	
No. 2	18	27	24	51	23	37	35	93
No. 5	<1.0	1.4	5.0	2.0		1.4	28	
田中川 1 (下流側)	13	11	8.3	24	20	17	85	—*
田中川 2 (上流側)	19	17	6.7	13	—	13	34	—

注：第Ⅱ・Ⅲ期工事実施時の予測結果を示した。

※：環境影響評価書において田中川 1 における予測は実施されていない。

表 3-5 水質調査結果(濁度)

単位：度

地点	通常降雨時				豪雨時	
	H29. 5. 26	H29. 6. 28	H29. 9. 8	H29. 10. 3	H29. 8. 8	H29. 10. 23
No. 2	7. 9	7. 4	23	44	42	24
No. 5	1. 6	1. 2	11	2. 7	1. 7	28
田中川 1(下流側)	9. 2	9. 6	4. 7	20	20	74
田中川 2(上流側)	6. 5	5. 8	4. 4	8. 8	7. 8	24

(2) まとめ

今回の調査結果を昨年度の結果と比較し、表 3-6 に示しました。

最終沈砂池出口の値をみると、No.2 では SS 濃度・濁度ともに、No.5 では SS 濃度の数値が減少している結果となりました。なお、濁水対策としては次のことを実施しました。

今回の結果は、これら対策の効果でもあると考えられます。

- ・沈砂池の堆積土砂の浚渫を行った。
- ・放流部にろ過機能となる砕石パック等を設置した。
- ・造成後の裸地部については早期緑化に努め、濁水負荷軽減に努めた。

排水の流入先である田中川の値をみると、昨年度から濁りの顕著な悪化はみられず、田中川下流の地域住民や漁協等から、これまで苦情等を受けていないことから、事業による大きな影響はないものと考えられます。

また、今後、これらの工事区域の宅地整備がすすむことにより濁水の流出は抑えられるものと考えられますが、引き続き調査を継続するとともに、巡回・監視等や必要に応じて濁水負荷軽減措置を講じるものとします。

表 3-6 昨年度調査結果との比較

単位(SS : mg/L、濁度 : 度)

地点	S S		濁 度	
	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
No.2	30 (18~51)	52 (30~100)	20 (7.4~44)	37 (18~84)
No.5	2.4 (<1.0~5.0)	4.4 (2.1~12)	4.1 (1.2~11)	2.7 (<1.0~4.8)
田中川 1(下流側)	14 (8.3~24)	17 (7.5~47)	11 (4.7~20)	7.3 (3.4~12)
田中川 2(上流側)	14 (6.7~19)	12 (4.3~25)	6.4 (4.4~8.8)	3.9 (1.9~8.0)

※数値は「平均値(最小値~最大値)」

3-5-2 供用後の水質

供用後の水質調査結果は表 3-7 に示したとおりです。

排水流入後の田中川下流側（田中川 1）では、pH が 7.5～8.5、BOD が 0.9～3.8mg/L、COD が 3.8～7.3mg/L、SS が 4.1～13mg/L、T-N が 0.53～1.0mg/L、T-P が 0.057～0.11mg/L の範囲でした。排水流入前の田中川上流側（田中川 2）では、pH が 7.2～10、BOD が 0.6～1.8mg/L、COD が 3.0～6.6mg/L、SS が 2.4～6.4mg/L、T-N が 0.32～0.63mg/L、T-P が 0.032～0.068mg/L の範囲でした。

昨年度に引き続き、本年度も田中川において浚渫等の治水工事が実施されていたことから、一定期間採水を実施することができませんでした。事後調査計画に基づく現況把握のため、4 回の採水を実施しましたが、4 回目の調査日は田中川周辺の水田における代かき期にあたり、水田土壌の流出があったため、両地点とも S S で高い値でした。

今回の値を表 3-8 に示す評価書の供用時(田中川下流)の水質予測結果と比較すると、平成 29 年 10 月調査時の C O D が上回っていますが、それ以外の項目は予測結果を下回る値であり、また、他の調査日ではいずれの項目も予測結果を下回る値でした。

なお、評価書においては田中川での農業利水への影響を考慮し、保全対策として施設からの排水の放流先の変更を行っています。

採水状況等を調査風景は、資料編の写真 2-1-25～32 に示したとおりです。

表 3-7 水質調査結果(供用後の排水)

(単位；pH：なし、大腸菌群数：MPN/100mL、流量：m³/分、その他：mg/L)

調査日 地点 項目	H29. 7. 12		H29. 10. 5		H29. 12. 6		H30. 3. 30	
	田中川 1 (下流)	田中川 2 (上流)	田中川 1 (下流)	田中川 2 (上流)	田中川 1 (下流)	田中川 2 (上流)	田中川 1 (下流)	田中川 2 (上流)
水素イオン濃度 (pH)	8.5	10.0	7.8	7.2	7.5	7.2	8.5	8.1
生物化学的酸素 要求量(BOD)	2.2	1.8	0.9	0.6	1.6	0.9	3.8	1.2
化学的酸素要求 量(COD)	7.3	6.6	5.0	4.3	3.8	3.0	5.9	4.0
浮遊物質(SS)	6.5	2.7	13	3.5	4.1	2.4	13	6.4
n-ヘキサン 抽出物質	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
全窒素	0.53	0.63	1.0	0.51	1.0	0.33	0.67	0.32
全燐	0.057	0.068	0.11	0.062	0.078	0.032	0.069	0.050
溶存酸素	8.6	5.6	11	8.5	14	12	11	11
大腸菌群数(MPN)	1300	110	2400	350	4900	7900	130	1600
流量	1.9	1.8	4.9	4.0	4.2	1.7	2.3	1.6

表 3-8 田中川（下流）における水質の予測結果（供用時）

項目	単位	春季	夏季	秋季	冬季
生物化学的酸素 要求量(BOD)	mg/L	6.0	4.3	2.9	3.2
化学的酸素要求 量(COD)	mg/L	11	11	4.3	7.2
全窒素	mg/L	3.0	2.9	2.0	4.1

注：予測は事業区域からの排水負荷が最大と予想される平成 17 年度について行っている

4 特筆すべき動物

4-1 オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ

4-1-1 調査概要

評価書の現況調査(以下「現況調査」という。)において生息を確認したオオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウについて、当該地域の利用状況を把握するため、事業実施区域及びその周辺において調査を実施しました。

4-1-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-1-1 に示したとおりです。

表 4-1-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成 30 年 3 月 15 日	定点観察調査 (8:00~16:00)

4-1-3 調査場所

調査定点は図 4-1-1 に示したとおり、事業実施区域のうち、工事未着工の西側区域を中心に 4 地点設定しました。

4-1-4 調査方法

各調査地点において事業実施区域及び事業実施区域周辺における対象種の出現状況（飛翔等の行動）を記録しました。

なお、調査には 8 倍程度の双眼鏡、25~30 倍程度の望遠鏡を用いて実施するとともに、各調査員間は無線機を用い、互いに連絡をとりながら対象種の行動を詳細に把握することとしました。



图 4-1-1 才オタ力等調査定地点

4-1-5 調査結果

本調査の結果、調査対象種 3 種(オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ)のうち、ハイタカ 1 種の生息を確認しました。

確認状況は表 4-1-2 及び図 4-1-2 に示したとおりであり、飛翔や採餌行動の確認のみで、繁殖を示唆する行動(巣材運び等)は確認できませんでした。

事後調査開始時からの確認状況を表 4-1-3 に示しましたが、これまで確認できる年とできない年があるものの、当該地域周辺の環境に大きな変化はみられなかったことから、当該地域はこれらの種の餌場の一部等として利用されるものと考えられてきましたが、西側のⅢ期工事区域内の道路工事とともに造成工事も進んできたことから、事業実施区域周辺の耕作地等はこれまでと同様、餌場環境としての利用はあると考えられるものの、繁殖等の生息環境は事業実施区域の北側や南側、西側の森林地域に移っていくものと考えられます。

調査状況は資料編の写真 2-2-1~4 に示したとおりです。

表 4-1-2 ハイタカ確認状況

No.	種名	確認時間	雌雄・成幼	確認状況
1	ハイタカ	12:16~13:16	不明・不明	定点 1 の西側(事業実施区域内)を北から南に向かって飛翔する 1 個体を確認。すぐに手前の尾根で消失。
2	ハイタカ	12:25~12:26	不明・不明	「1」が消失した付近から出現し、南に飛翔。そのまま消失。
3	ハイタカ	12:30~12:31	不明・不明	定点 1 の南西側耕作地上空を旋回している 1 個体を確認。東に向きを変え、旋回しながら北へさらに向きを変え飛翔を続け消失。

注：表中のNo.は図 4-1-2 中のNo.に対応。

表 4-1-3 オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウの過去の確認状況

種名	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
オオタカ	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	×
ハイタカ	×	○	×	×	×	×	×	○	○	○	×
チョウゲンボウ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×

種名	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
オオタカ	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
ハイタカ	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
チョウゲンボウ	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×

注：「○」は生息を確認、「×」は確認できなかったことを示す。

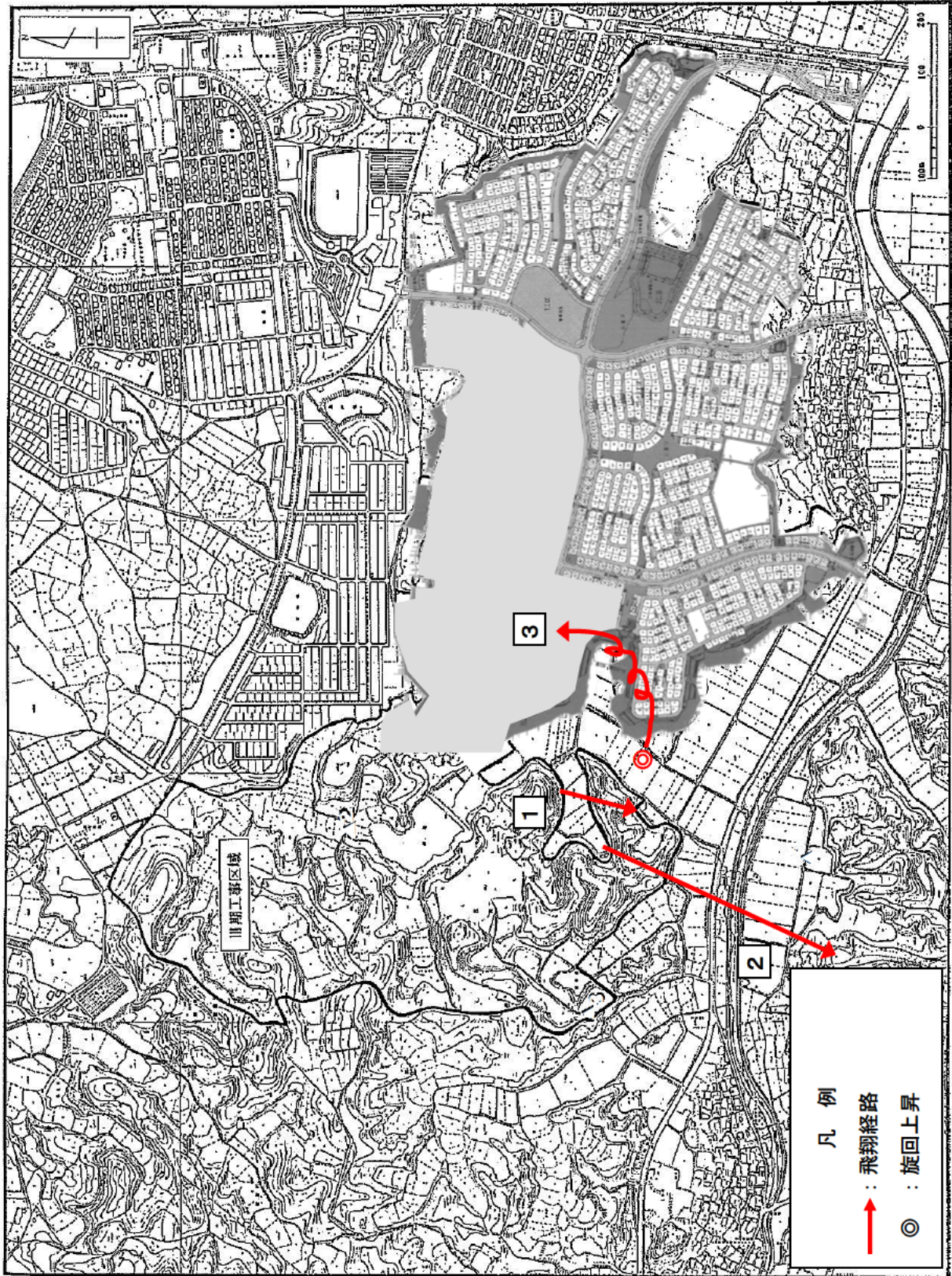


図 4-1-2 ハイタカ確認位置

4-2 コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウ

4-2-1 調査概要

現況調査において生息を確認したコアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウについて調査を実施しました。

4-2-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-2-1 に示したとおりです。

表 4-2-1 調査年月日及び調査内容

対象種	調査年月日	調査内容
オオヨシキリ チュウサギ コアジサシ サンコウチョウ	平成 29 年 6 月 12 日	任意観察調査

4-2-3 調査ルート

主な調査ルートは図 4-2-1 に示したとおりです。

4-2-4 調査方法

調査は事業実施区域及びその周辺を任意に踏査し、対象種の確認に努めました。
なお、調査には 8 倍程度の双眼鏡等を用いて実施しました。

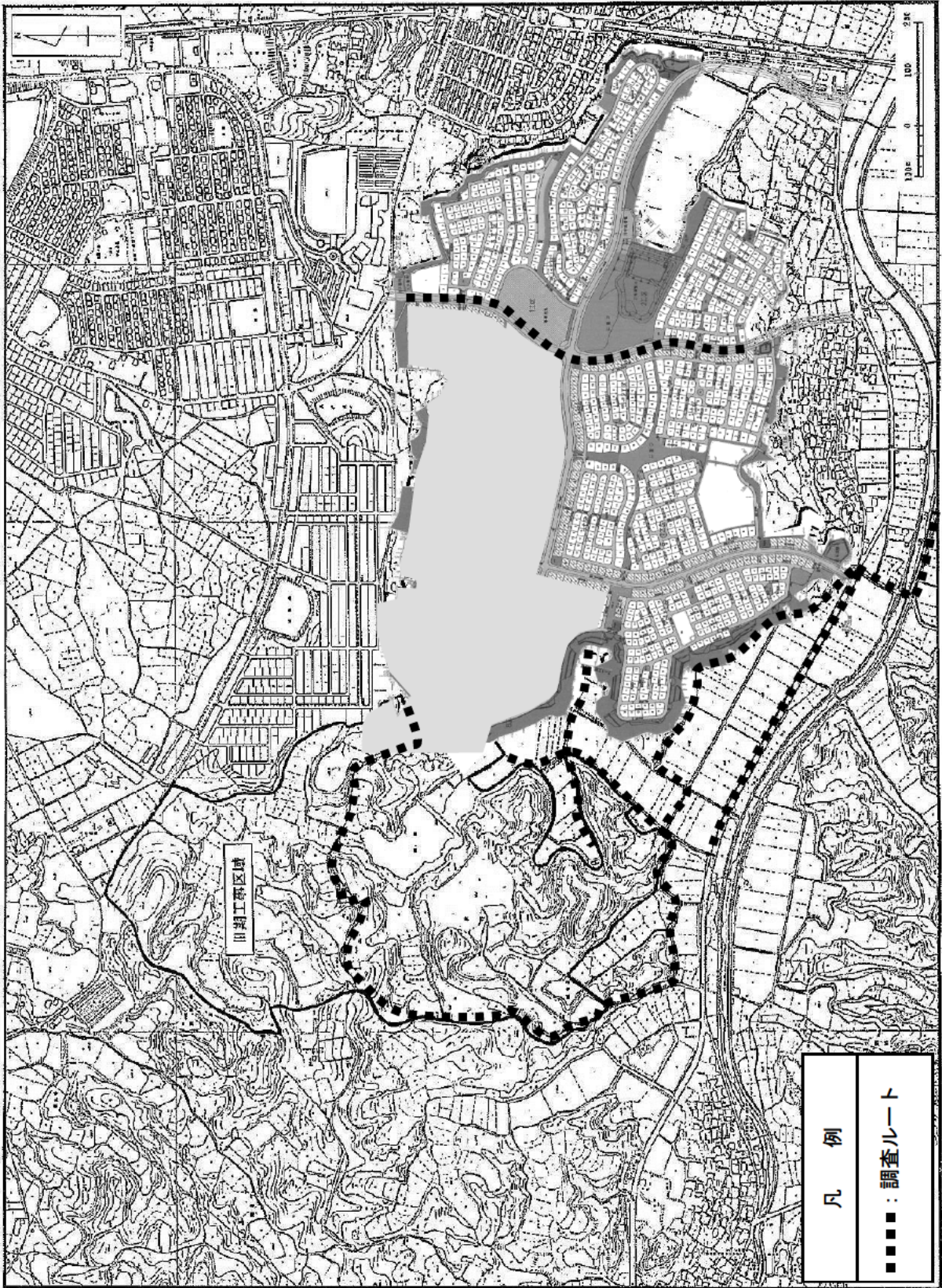


図 4-2-1 コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチヨウ調査ルート

4-2-5 調査結果

今回の調査では、図 4-2-2 に示したとおり事業実施区域南側の水田でチュウサギ 1 個体を確認しました。

確認できなかったこれらの種については以下のとおりと考えます。

オオヨシキリは、当該地域では主に田中川河川区域内のヨシ群落に依存していると考えられます。しかし、今回の調査時には浚渫等の治水工事によりヨシ群落が減少していたことが影響していると考えられます。また、事業実施区域にはヨシ群落はほとんど見られないことから、この田中川河川区域内のヨシ群落が回復しない限り今後も確認されないものと考えられます。

サンコウチョウについては、本事業の実施後では、周辺環境に特に大きな変化は見られませんが、西側のⅢ期工事区域内を他の事業である道路工事が進んでいることから、本種の生息環境である森林が分断されています。また、本事業も将来的にはⅢ期工事区域の土地造成を行う計画でもあることから、将来的には本種の生息環境は消失するものと考えられます。

コアジサシについては、本種の主な採餌環境が海岸及び河口付近であることから、今後も河口から餌を求めて田中川を上がってくる事が考えられるため、田中川を中心に調査を継続して実施することとします。

なお、これまでの事後調査におけるコアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウの確認状況を表 4-2-2 に示しました。

調査の状況等は、資料編の写真 2-3-1、2 に示したとおりです。

表 4-2-2 コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウの過去の確認状況

種名	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
コアジサシ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
オオヨシキリ	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○
チュウサギ	×	○	○	×	○	○	○	○	×	○
サンコウチョウ	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×

種名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
コアジサシ	×	×	×	×	×	×	×	×	×
オオヨシキリ	○	○	×	×	○	○	×	×	×
チュウサギ	○	○	○	○	○	×	×	○	○
サンコウチョウ	×	×	×	×	×	×	×	×	×

注：「○」は確認、「×」は未確認を示す。

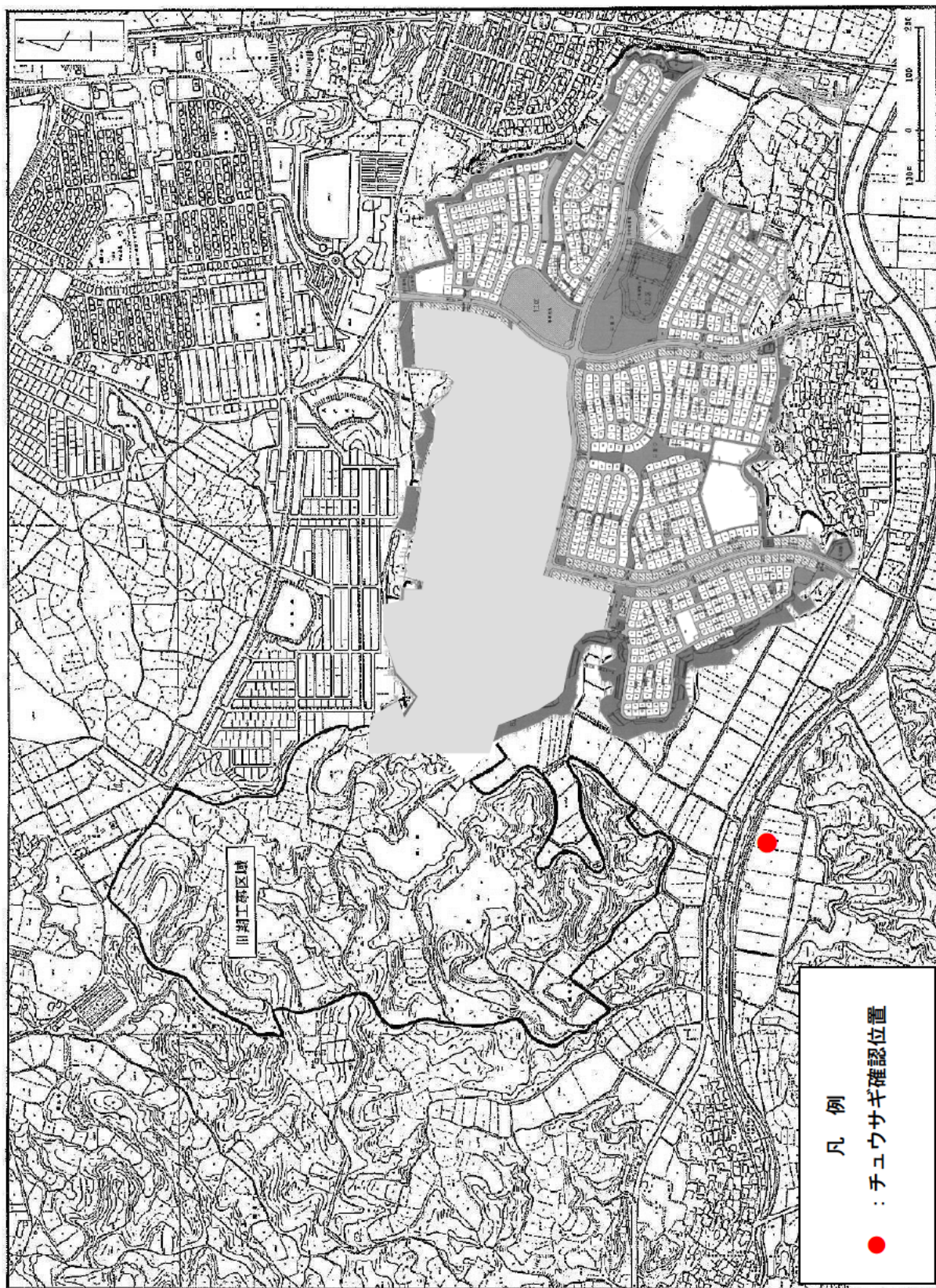


図 4-2-2 チュウウサガギ確認位置

4-3 カスミサンショウウオ

4-3-1 調査概要

カスミサンショウウオの産卵期である 3 月に事業区域及びその周辺を踏査し、卵嚢を主とする確認調査を実施しました。また、移殖地の環境整備を本種の調査前に実施しました。

4-3-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は、表 4-3-1 に示したとおりです。

表 4-3-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成 30 年 1 月 30 日	環境整備（水路整備、除草）
平成 30 年 2 月 28 日 平成 30 年 3 月 20 日 平成 30 年 4 月 9 日	卵嚢、成体確認調査

4-3-3 調査場所

調査は事業区域のうち未造成区域であるⅢ期工事区域及び周辺としました。調査場所は図 4-3-1 に示したとおりです。

4-3-4 調査方法

昨年まで実施した調査で卵嚢等を確認した地域を中心に踏査し、卵嚢や成体の確認を行いました。卵嚢等を確認した場合は、確認地点の位置、卵嚢数、卵数、水温、pH、産卵地の状況等について記録しました。

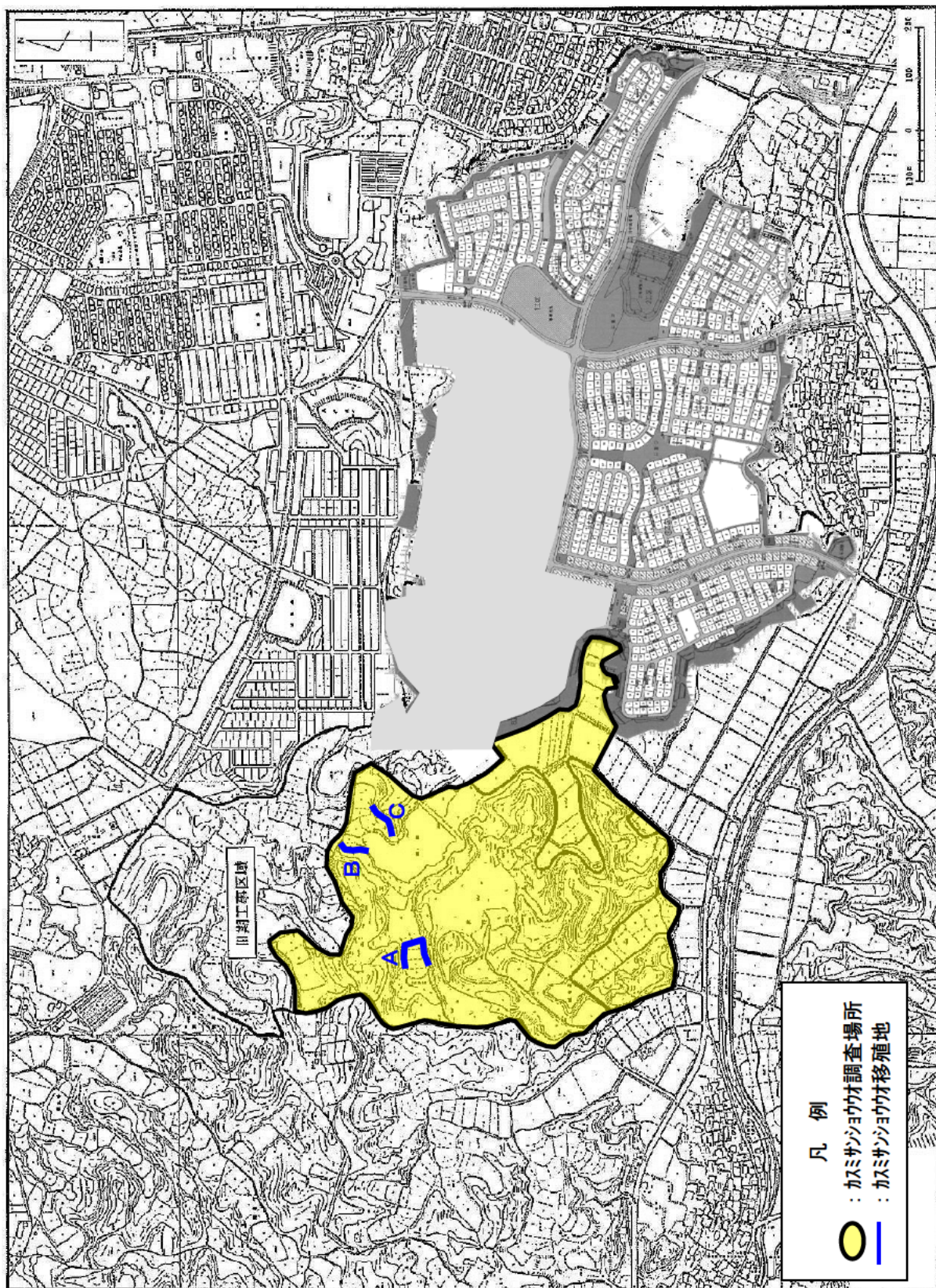


図 4-3-1 カミサシヨウウオカ調査場所

4-3-5 調査結果

卵嚢・成体の調査結果及び確認地点の水質等は表 4-3-2 に、確認地点は図 4-3-2 に示したとおりです。また、確認した卵の発生段階の推移は表 4-3-3 に示したとおりです。なお、卵の発生段階については、トウホクサンショウウオ発生段階図（資料参照）を準用し、現地で判定したものを記載しました。

今回の調査では、2 地点（地点 A、B）において計 5 対（10 卵嚢）を確認しました。1 卵嚢あたりの卵数は 46～88 卵で、1 卵嚢あたりでは平均 73.1 卵（1 対あたり 146.2 卵）でした。

卵嚢確認地点は、斜面下部の水路等の水溜りで、水質は調査時の水温が 10.2～13.2℃、pH が 6.3～6.7、水深は 2～7cm でした。成体については確認できませんでした。

平成 10 年 11 月に新たな移殖地として整備し、卵嚢を移殖した移殖地 A～C については、移植地 A の水路及び水溜りで 1 個（2 卵嚢）、移殖地 B の水路で 4 個（8 卵嚢）を確認しましたが、移殖地 C の水溜りでは確認されませんでした。移殖地 C における産卵場所及びその周辺環境は、産卵を確認した平成 20 年度以降に大きな変化はみられません。

これら移殖地で確認した卵嚢が移殖（卵嚢）個体による産卵か、以前よりこれらの場所を産卵地として利用している個体が産卵したものかについては区別はできません。

なお、これまでの事後調査におけるカスミサンショウウオの確認状況は表 4-3-4 に示したとおりです。

調査の状況及び卵嚢確認状況等は、写真 2-4-1～11 に示したとおりです。

表 4-3-2 カスミサンショウウオ調査結果

調査年月日	地域	卵No	成体数	対 (卵囊数)	卵数	全卵数 (うち死卵数)	水温 (°C)	pH	水深 (cm)	地点状況及び底質の状況	発生段階
平成30年2月28日	B	B-01	0	1 2	77 82	159 35	13.2	6.7	2	斜面下素掘り水路、落葉枝多い、泥質	A
		B-02	0	1 2	73 75	148 28			2		A
		B-03	0	1 2	84 88	172 19			2		A
		B-04	0	1 2	46 49	95 10			4		A-B
平成30年3月20日	A	A-01	0	1 2	76 81	157 0	10.2	6.3	7	斜面下池状の水たまり、落葉枝少、泥質	A-B
平成30年4月9日	新たな卵塊確認なし										

表 4-3-3 確認した卵囊の発生段階の推移

No.	卵No.	調査年月日		
		平成30年2月28日	平成30年3月20日	平成30年4月9日
A	A-1	—	A-B	C
B	B-1	A	発生進まず	発生進まず
	B-2	A	発生進まず	発生進まず
	B-3	A	発生進まず	発生進まず
	B-4	A	発生進まず	発生進まず
C		卵囊確認なし		
D		卵囊確認なし		
E		卵囊確認なし		
F		卵囊確認なし		

注：表中の発生段階の説明は資料編の「トウホクサンショウウオ発生段階図参照」

表 4-3-4 カスミサンショウウオの過去の確認状況

種名	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
カスミサンショウウオ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

種名	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
カスミサンショウウオ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注：「○」は確認、「×」は未確認を示す。

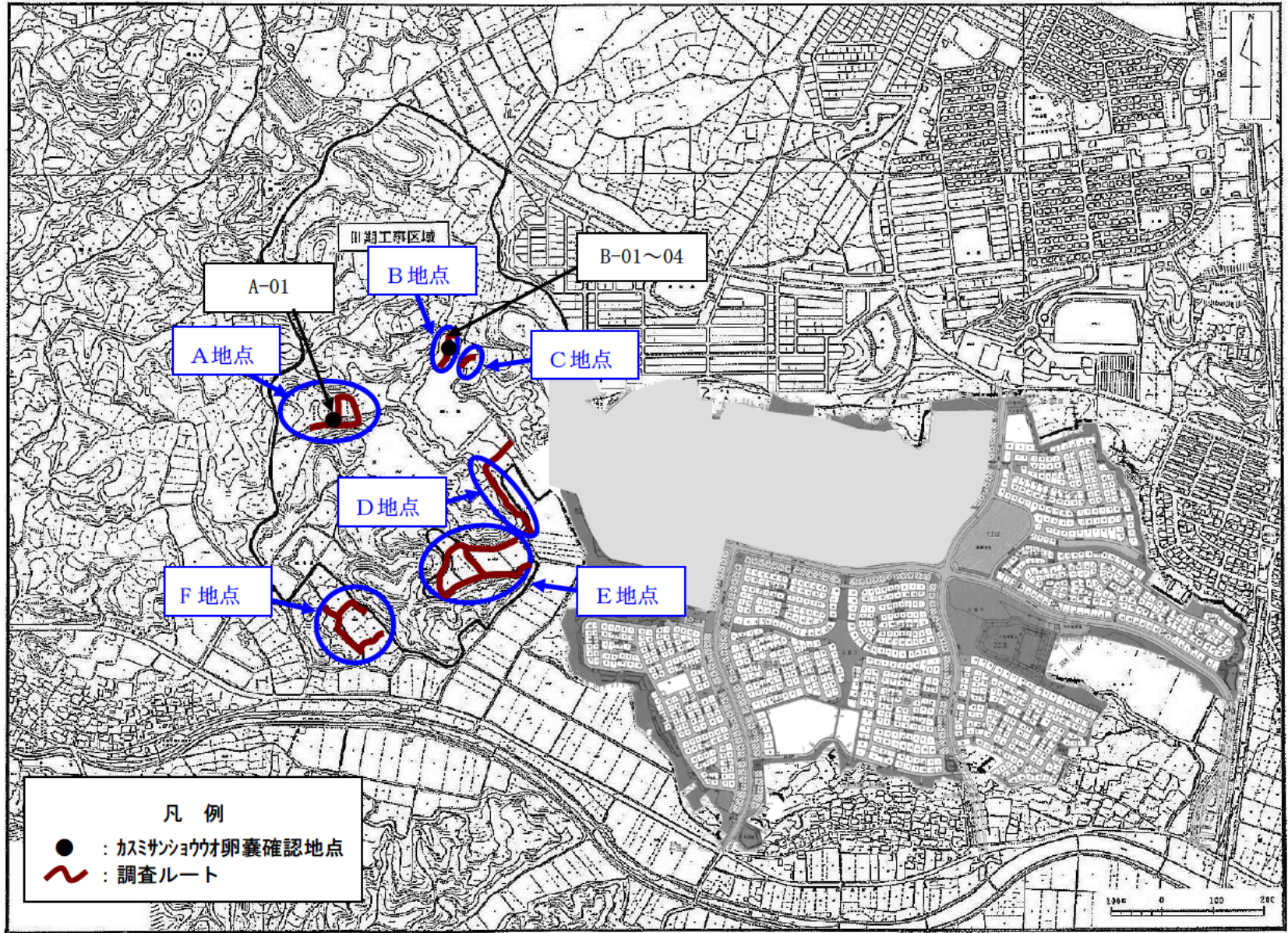


図 4-3-2 カスミサンショウウオ卵囊確認地点

4-4 ダルマガエル

4-4-1 調査概要

現況調査時に生息を確認したダルマガエルについて、生息確認調査を実施しました。

4-4-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-4-1 に示したとおりです。

表 4-4-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成 29 年 8 月 3 日	成体確認調査

4-4-3 調査場所

調査場所は図 4-4-1 に示したとおり、現況調査時の確認地点東側の水田、水路や事業区域南側の水田等を中心に実施しました。

4-4-4 調査方法

成体の出現時期に目視及びタモ網等により本種の確認に努めるとともに、鳴き声による確認にも努めました。

4-4-5 調査結果

事業実施区域の未改変区域及び区域外で生息の可能性が高いと考えられる東側の水田や南側の水田等で調査を実施しましたが、本種の生息を確認することはできませんでした。

現況調査時においても本種の確認は成体 1 個体の確認であり、当地域における生息個体数は極めて少ないと考えられますが、今後も調査を継続し、生息の確認に努めることとします。

なお、これまでの事後調査におけるダルマガエル確認状況を表 4-4-2 に示しました。

調査の状況等は、資料編の写真 2-5-1、2 に示したとおりです。

表 4-4-2 ダルマガエルの過去の確認状況

種名	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
ダルマガエル	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

種名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
ダルマガエル	×	×	×	×	×	×	×	×	×

注：「○」は確認、「×」は未確認を示す。

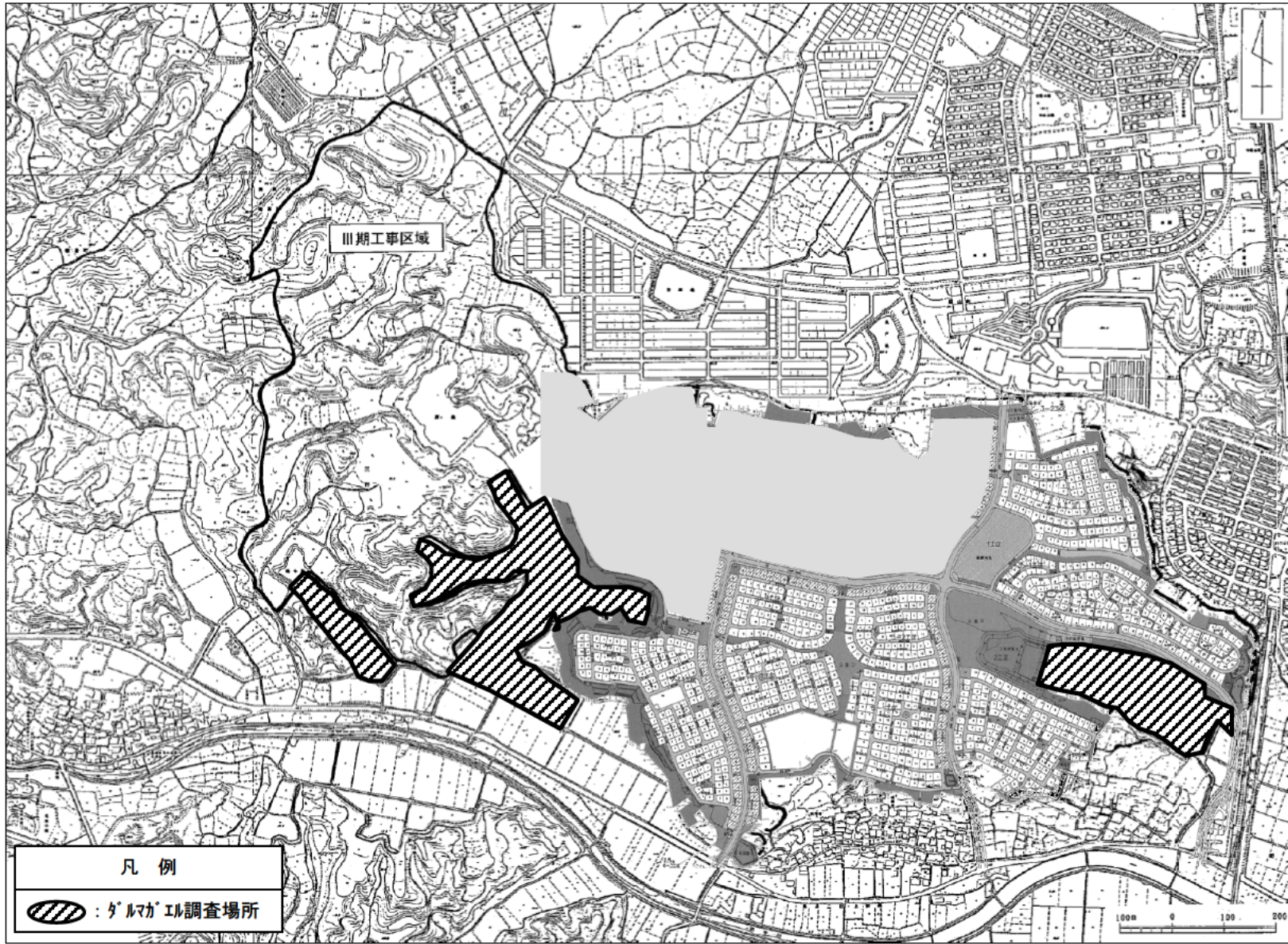


図4-4-1 ダルマガエル調査場所

< 資料編 >

- 1 トウホクサンショウウオ発生段階図
 - 2 調査状況等写真
 - 2-1 水 質
 - 2-2 特筆すべき動物(オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ)
 - 2-3 特筆すべき動物(コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウ)
 - 2-4 特筆すべき動物(カスミサンショウウオ)
 - 2-5 特筆すべき動物 (ダルマガエル)
- 添付 水質調査結果 計量証明書(写し)